

労働映画百選通信 No.06 2016.03

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

あなたのおすすめ「労働映画」は？

【労働映画についてのアンケート調査】実施しています！



労働映画 スペシャルサイト
<http://hatarakubunka.net/>

いま、働くことをめぐる困難がますます高まる中で、世界の多くの国々で労働を主題にした多くの映画作品が製作され、人々の共感をあつめています。そして、映画と労働の世界との関わりについての歴史的関心もまた高まっています。日本映画も同様に労働に向き合ってきた長い歴史を持ち、現在も多くの労働映画が産み出されています。

そこで、私たちは日本の映画作品が、仕事と暮らしの実態、働く人たちの悩みと希望、あるいは働くことの意義と喜びをどのように描いてきたかを考察し、現在と未来に向けての教訓をくみとることをめざし、日本映画百年の歴史が産んだ代表的労働映画百本を選ぶ作業を進めています。

その活動の一環として、映画と労働の世界にご関心を持つ多くの方々に、これまでに見た日本の労働映画の中で、もっとも印象に残る作品、多くの人に見てほしいと思う作品についてお教えいただき、日本の代表的労働映画百本を選ぶにあたっての参考にしたいと考え、アンケート調査を実施することとなりました。

調査は無記名であり、ご記入いただいた内容については統計的に処理しますので、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用することは一切ございません。

つきましては、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2015年7月1日

NPO法人 働く文化ネット 労働映画百選選考委員会

【上映情報】労働映画列島！3～4月 ※《労働映画列島》で検索！ <http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00160303>

◎新作ロードショー

風の波紋 《3月19日(土)から 東京 渋谷 ユーロスペースほかで公開》

新潟・妻有(つまり)の里山に、都会から移り住んできた夫妻の5年間を記録したドキュメンタリー。茅葺き屋根の古民家を修復し、見よう見まねで米を作る日々を追う。(2015年 日本 監督/小林茂) <http://kazenohamon.com/>

シュウカツ 《4月2日(土)から 東京 キネカ大森、大阪 九条 シネ・ヌーヴォで公開》

就職活動に取り組む学生と企業の攻防を、面接、身辺調査などのキーワードとともにオムニバス・ドラマ形式で描く。(2015年 日本 監督/千葉誠治) <http://www.shukatsu-movie.com/>

ハロルドが笑う その日まで 《4月16日(土)から 東京 恵比寿ガーデンシネマほかで公開》

世界的な家具チェーン店の進出により、廃業に追い込まれた家具店主・ハロルド。復讐のためチェーン店の創業者を誘拐したことから始まる珍道中。(2014年 ノルウェー 監督/グンナル・ヴィケネ) <http://harold.jp/>

◎名画座・特集上映

- 【東京 池袋 新文芸座】3/16～4/2「**気になる日本映画達〈アイツラ〉2015**」…きみはいい子/ピリギヤル/新しき民/他
- 【東京 日比谷図書文化館】3/23～25「**第3回 グリーンイメーჯ国際環境映像祭**」…最後のハンダハン/魚道/馬搬/他
- 【東京 神保町シアター】3/26～4/22「**生誕110年 女優 杉村春子**」…めし/千羽鶴/晩菊/流れる/他
- 【東京 シネマヴェール渋谷】3/26～4/22「**映画作家・千葉泰樹**」…へそくり社長/大番/狐と狸/がめつ奴/他
- 【東京 下北沢 ダーウィンルーム】3/27「**短篇映画研究会 にっぽん山ライフ!**」…川干し切唄/奥会津の木地師/他
- 【横浜市大倉山記念館】3/26・27「**第9回 大倉山ドキュメンタリー映画祭**」…アラヤシキの住人たち/みんなの学校/他
- 【所沢市民文化センター】3/19～21「**ミュージズ シネマ・セレクション**」…あん/夢は牛のお医者さん/ジヌよさらば/他
- 【高崎市文化会館ほか】3/26～4/10「**第29回 高崎映画祭**」…新しき民/ここに泉あり/階段通りの人々/他
- 【上越 高田世界館】3/11～17「**銀映の街 映画祭**」…サムライフ/この空の花 長岡花火物語/ともに担げば/他
- 【広島市映像文化ライブラリー】3/16～24「**1970年代アメリカ映画特集**」…ナッシュビル/天国の日々/他
- 【福岡市総合図書館映像ホール】4/1～24「**台湾映画特集**」…海辺の女たち/あひるを飼う家/バナナ・パラダイス/他

【テーマ研究】#6 《漁業・漁村》を描いた作品 資料作成:波多楽久

日本の労働映画の歴史を辿るとき、縦軸には「時代」があり、横軸には様々な職業や仕事の形態、労働の意義や現場の課題など、多岐にわたる「テーマ」が広がっている。この欄は、テーマごとに関連する作品を発掘していく試みである。

第6回は《漁業・漁村》を描いた作品。およそ100年にわたる映像作品を並べると、日本の漁業・水産業が時代のニーズとともに変貌を繰り返してきた様子が見えてくる。戦争・復興・経済成長・過疎・環境汚染・食生活……。特に捕鯨を巡っては、かつては花形だった仕事が、社会の要請や国際関係などの影響を受けて、その評価もめまぐるしく変わっていったことがわかる。いちど特集上映を行って概観してみたいテーマだ。

ジャンル:【劇】劇映画 【記】記録映画 【短】短編映画 【TV】テレビ番組 /ソフト:【DVD】【VIDEO】/フィルムライブラリー:【多摩】都立多摩図書館 【NHK】各局の公開ライブラリーで閲覧可能 【SKIP】彩の国ビジュアルプラザ(埼玉・川口)で閲覧可能 【放L】放送ライブラリー(横浜)で閲覧可能

【記】 鮫港沖捕鯨の実況 (1911) 吉澤商店 八戸・鮫漁港。
 【劇】 女漁師 (1912) 日活 新派悲劇。
 【記】 漁婦 (1940) 読売新聞社 撮影/樋口哲雄
 出征した男の代わりに沖合で働く、岩手県白浜村の漁婦。
 【記】 冬季漁業 (1941) 十字屋 監督/桑野茂
 山形県豊浦村。厳しい冬季漁業に取り組む漁民たち。
 【記】 和具の海女 (1941) 横浜シネマ 監督/上野耕三
 志摩半島和具町の海女たちを、水中撮影を駆使して描く。
 【記】 海に生きる 遠洋底曳漁船の記録 (1949) 日本映画社
 企画/全日本海員組合 監督/柳澤寿男 撮影/林田重男
 北九州を基地に活躍する遠洋底曳漁船を同行取材。
 【短】 ポンせんべい (1950) 日本映画社 監督/桑野茂 [DVD]
 漁村の少女の奉公から、子供の就労問題を描く児童劇。
 【記】 漁る人々 (1950) シュウ・タグチ・プロ 撮影/岡崎宏三
 漁民たちに「新漁業法」で保証された権利を説く。
 【劇】 蟹工船 (1953) 現代ぶる 監督/出演/山村聰 [DVD]
 小林多喜二の小説を映画化。蟹工船で酷使される貧しい労働者たちが、遂に指導者のもとでストライキを起こす。
 【劇】 怒りの孤島 (1958) 日映/松竹
 監督/久松静児 出演/鈴木和夫、二本てるみ
 鯛の一本釣りの過酷な労働から脱出する少年達のドラマ。
 【記】 荒海に生きる (1958) NDF 監督/亀井文夫
 高知県室戸岬の漁民による遠洋マグロ漁の記録。
 【劇】 第五福竜丸 (1959) 近代映協
 監督/新藤兼人 出演/宇野重吉、乙羽信子 [DVD]
 水爆実験で被曝した「第五福竜丸」船員たちの悲劇。
 【記】 黒潮丸 (1960) 岩波映画 企画/日魯漁業 監督/土屋信篤
 インド洋でのマグロ船の操業と、船員たちの生活を記録。
 【TV】 テレビ指定席 海の畑 (1963) NHK
 演出/山田達雄 出演/嵐寛寿郎 [NHK]
 立ち退きを迫られる東京・大森の漁師たちを描いたドラマ。
 【記】 魚群アフリカに行く (1965)
 岩波映画 企画/日本水産 監督/田中実ほか [多摩]
 アメリカ西海岸諸国に進出した日本の遠洋漁業を紹介。
 【記】 南氷洋の捕鯨 (1967)
 東映教育映画部 監督/大島善助 [多摩]
 故国を遠く離れた南氷洋で、鯨を追う日本捕鯨船団。
 【TV】 天の山 (1967) 山陽放送 演出/糸島誠 [放L]
 倉敷市下津井の老婆を通して、小さな漁村の現状を描く。
 【劇】 荒い海 (1969) 真珠舎/日活
 監督/山崎徳次郎 出演/渡哲也、高橋英樹
 南氷洋捕鯨船に乗り込んだ青年の成長を描く海洋ドラマ。
 【TV】 苦界浄土 (1970) RKB毎日 演出/木村栄文
 原作/石牟礼道子 出演/北林谷栄 [放L]
 不知火海の漁民を歴訪し、水俣病が奪ったものを追う。
 【TV】 ドキュメンタリー 風成の女たち (1971) NHK大分 [NHK]
 セメント工場建設に反対する臼杵湾の主婦たちの闘い。
 【記】 不知火海 (1975) 青林舎 監督/土本典昭 [DVD]
 水俣病患者たちの日常や不知火海の漁師たちの仕事を記録し、豊饒の海に生きる人びとの暮らしの豊かさに迫る。
 【記】 ザ・サカナマン (1979) 黒田プロ 監督/黒田輝彦 [DVD]
 静岡県戸田港所属の遠洋マグロ漁船の操業を記録。

【劇】 魚影の群れ (1983) 松竹富士 監督/相米慎二
 出演/緒形拳、夏目雅子、佐藤浩市 [DVD]
 吉村昭の小説を映画化。下北半島・大間のマグロ漁師。彼の娘が連れてきた恋人が、漁師になりたいと志願する。
 【記】 海盗り 下北半島・浜間根 (1984) 青林舎 監督/土本典昭
 原子力船「むつ」の母港建設で揺れる青森県下北半島。漁業権をめぐる攻防を、漁民の側から記録。 [DVD]
 【TV】 鯨と人と海と (1987) RKB毎日 演出/伊賀崎儀一 [放L]
 1987年3月に幕を閉じた南氷洋商業捕鯨の最後の船団。
 【TV】 われら了解せず 捕鯨船 第31純友丸 (1987)
 仙台放送 演出/佐藤俊昭 [放L]
 宮城県牡鹿町の船を通して、最後の沿岸小型捕鯨を描く。
 【記】 有明海の干潟漁 (1989) 桜映画社
 企画/国立歴史民俗博物館 監督/大島善助 [SKIP]
 有明海沿岸の伝統的な漁撈の習俗と漁法を克明に記録。
 【記】 老人と海 (1990) シグロ 監督/ジャン・ユンカーマン [DVD]
 与那国島でカジキ漁をする82歳、糸数繁さんの生活。
 【記】 鯨捕りの海 (1998) シグロ 監督/梅川俊明 [VIDEO]
 日本の沿岸小型捕鯨を中心に、世界各地の現状を取材。
 【TV】 マグロに賭けた男たち (2002-) テレ朝=大河プロ
 青森県大間崎のマグロ漁師の奮闘を描く人気シリーズ。
 【記】 海女のランさん (2004) 桜映画社 監督/原村政樹
 海女として7人の子供を育てた在日一世の女性。 [DVD]
 【TV】 黒いダイヤ (2005) 東海テレビ 演出/阿武野勝彦 [放L]
 愛知県美浜町。海苔養殖漁師たちに迫る空港建設計画。
 【記】 今、有明海は (2006) イワプロ 監督/岩永勝敏 [DVD]
 有明海で受け継がれてきた60種余りの伝統漁法を記録。
 【TV】 イナサ 風と向き合う集落の四季 (2006)
 NHK仙台 演出/伊藤孝雄、小笠原勤 [NHK][放L]
 太平洋に面した漁村・仙台市荒浜地区の四季を描く。
 【劇】 蟹工船 (2009)
 IM|ほか 監督/SABU 出演/松田龍平、西島秀俊 [DVD]
 小林多喜二の小説を、現代的アレンジを施して再映画化。
 【劇】 不灯港 (2009) ぴあほか
 監督/内藤隆嗣 出演/小手伸也、宮本裕子 [DVD]
 アラフォー独身漁師の恋の顛末を描くオブビートな喜劇。
 【記】 ザ・コーヴ (2009) アメリカ 監督/ルイ・シホオス [DVD]
 動物保護運動家のリック・オバリーらが和歌山県太地町のイルカ漁を告発。日本での公開に反対運動が起こる。
 【記】 吼える40度線 (2011) 黒田プロ 監督/釜田千秋 [DVD]
 室戸の遠洋漁船のマグロ漁を、漁師自身が記録した映像。
 【記】 放射線を浴びたX年後 (2012) 南海放送 監督/伊東英朗
 1954年の水爆実験が各地の漁師に及ぼした被曝の実態。
 【記】 長良川根性 (2012)
 東海テレビ 監督/阿武野勝彦、片本武志
 長良川河口堰に翻弄されてきた流域の漁師たちの歴史。
 【記】 桃と小桃とこもも丸 (2012)
 慶應義塾大学SFC藤田研究室 監督/新部貴弘
 鎌倉・材木座海岸で漁師として働く2人の女性を記録。
 【TV】 連続テレビ小説 あまちゃん (2013) NHK
 演出/井上剛ほか 脚本/宮藤官九郎 出演/能年玲奈 [DVD]
 女子高生が岩手県三陸地方の海女に憧れて弟子入り。

*このリストを引用する時には【労働映画百選より】と付記いただきますよう、お願いします。

【作品ガイド】『この自由な世界で』 *It's A Free World*・・・ 文: 清水洋子

2007年/96分 イギリス=イタリア=ドイツ=スペイン 監督/ケン・ローチ 出演/キルストン・ウェアリング
 《一人息子を両親に預けて働くシングル・マザー。仕事が軌道にのったら息子と一緒に暮らすつもりで、職業斡旋所を始める。仕事の内容は、外国人労働者を企業に紹介することだった。しかしある日、不法移民を働かせる方が儲けになることを知る。そして彼女は、越えてはいけない一線を越えてしまう……》

グローバル経済の世界における「労働の自由」とは？ モラルとは？

あらかじめ申し上げておきますが、わたしは並々ならぬ経済音痴。それでもこの映画を見ると、世界規模で進んでいるグローバル経済の中で働くことの困難さを考えずにいられない。イギリスが舞台だけど、今の日本でも、あちこちで起きていそうなことばかり。

主人公はロンドンに住む33歳のシングル・マザー、アンジー。人材派遣会社でバリバリ働いていたものの、上司のオッサンからセクハラを受け抗議したところ、クビになる。苦境に立たされた彼女は、前職で得たノウハウを生かして職業斡旋所を友人と始めることに。

頑張っていたのにリストラにあったアンジー。起業の動機は「他人から命令を受ける仕事は二度としたくない！ 経済的に自立して息子と一緒に暮らしたい」。最初の動機はマトモだった。ところが、事業を進めるほどに思惑がはずれ、資金繰りに困ったアンジーは遂に非合法な手段に手を染めてしまう。ともに事業をはじめた友人の言葉が印象的だ。「あなたと息子さえ幸せになれば、他の人は地獄へ落ちていいの？」。他人の弱みにつけ込み、平気で嘘をつき、よき友人を失い、両親からも愛想を尽かされ、詐欺同然に扱った労働者からは報復として暴力を受け、息子はイジメに遭った挙句に誘拐され…。

映画の原題は“*It's a free world*…”。自由な世界で生きることとは「何でもあり」なのか？ 人としてのモラルを捨て去ることなのか？ ケン・ローチ監督は見る者に問いかける。アンジーのことを「なんて非道い女だ！」と批判することは簡単だ。けれど、それは個人の資質にだけ責任があることなのか？ アンジーもまた世界を覆う経済システムの犠牲者ではないのか？ 再起を賭けて立ち上がったアンジーなのに、いつの間にか始めた戦争、どんな手段を使っても勝たねばならぬ」という意識に変貌してゆく。他人を虫ケラのように扱うことに麻痺してゆくプロセスには、怒りより哀しみが湧いてきた。

もうひとつ印象に残るシーンがあった。なりふり構わず働いているアンジーの現場に、不意にアンジーの父と息子が訪ねて来る。娘の傍若無人ぶりに顔を曇らせるお父さん、表情を失う息子。そんな姿を見られたくないアンジー。父親から忠告を受けたアンジーは言い放つ。「お父さんが働いていた時代とは、まったく違うの！」。残念ながらその通り。けれど、人を踏みつけにして得たお金で経済的に豊かになって幸せなのか？ 嘘の上塗りがバレることに怯え続けられないだろうか？

どうしたらこの時代、モラルを失わずに生き抜くことができるのだろうか？ 最近のインタビューでケン・ローチ監督は、こう語っている。「仕事することは元々<誇り>を得られる行為だ。これだけの失業者が増えた時代になった背景に、年長者が若者を裏切ったことがある」。日本は集団の同調圧力が強いだけに、ますます厄介な時代が到来するかもしれない。そうなった時、子供など弱者から犠牲になることは歴史が証明している。

清水洋子（しみずようこ）1967年生まれ。テレビディレクターとして26か国で労働。現在は主婦業とともに、福祉系のNPOで労働中。



[DVD]
ミッドシップ/ジェネオン

【次回の労働映画鑑賞会】

4～6月の統一テーマ: 働くこと、生きること、つながること

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。お気軽にご参加ください。

場所: 連合会館 2階 201会議室 (地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)
 参加費: 無料(事前申込不要、どなたでも参加できます)

第27回 『『おとめ争議団』、かく闘う』

日時: 2016年 4月14日(木) 18:30～ (18:00開場)
 場所: 連合会館 2階 201会議室



上映作品 ■ 娘たちは風に向かって

1972年/110分/白黒 制作 ■ 民芸映画、共同映画

監督 ■ 若杉光夫 脚本 ■ 今崎暁巳

撮影 ■ 井上 莞 音楽 ■ いずみたく

出演 ■ 小林千鶴子 津田京子 日色ともゑ 佐々木愛

宇野重吉 北林谷栄 米倉斉加年 新谷のり子 ほか

1966年、大阪・西淀川の被服工場で実際に起こった労働争議を素材にした《青春・胸キュン・労働映画》！ 宇野重吉・監修のもと、「劇団民藝」が総出演。監督・若杉光夫&撮影・井上莞の名コンビが送る珠玉作。



【労働映画のスターたち】第6回「小林聡美」 文：百永良武

置かれた場所で咲くオンナ 「均等法第一世代」のヒロイン像

今年「男女雇用機会均等法」の施行から30年。職場での男女の差別を禁止し、採用・昇進・定年などの面でも平等に扱うことを定めた法律によって、日本の女性の働き方も大きく変わっていった。1986年以降、男女の区別なく「総合職」に採用されるようになった「均等法第一世代」も今では50歳前後。管理職に昇進した人もいれば、「寿退社」して家事や子育てに奮闘してきた人も。現在活躍中の女優さんでは薬師丸ひろ子、小泉今日子、江角マキコといった人々がこの世代にあたるが、彼女たちが演じる役柄にも、様々な「オンナの生き方」が反映されていて興味深い。

その中でも特に注目したい存在が小林聡美だ。20代でのヒット作『やっぱり猫が好き』(1988)に始まり、30代に入ってから『すいか』(2003)、そして40代の『かもめ食堂』(2006)と、同世代の女性たちが「いいよね、こんな生き方」と憧れる、等身大のヒロインを演じ続けてきた。世田谷の信用金庫からヘルシンキのカフェまで、どんな職場にいても決しておかしくない存在感。近年ベストセラーとなっている渡辺和子シスター(ノートルダム清心学園理事長)の著書『置かれた場所で咲きなさい』のタイトル通り、どんな環境にも根を張って生きる、「平凡な人生」の数々。キャリアウーマンもパートタイマーもサマになる彼女の出演作から、「均等法」以後の働く女性の姿を眺めていこう。

1965年、東京都葛飾区出身。中学2年の時、TBSのドラマ『3年B組金八先生』のオーディションに合格し演技の世界へ。桜中学のクラスメート役には「たのきんトリオ」をはじめ、杉田かおる、三原じゅん子(現・参議院議員)、藤島ジュリー(現・ジャニーズ事務所副社長)らがいた。ショートカットでお調子者の女の子は、次に1982年公開の映画『転校生』(監督・大林宣彦)で主役に抜擢、その演技が高く評価される。中学生の男女の心と体が入り替わる設定だが、彼女が恥じらいを捨て「女の子になった男の子」を体当たりで演じた結果、80年代を代表する青春映画が生まれた(皇太子殿下もお気に入りの作品とのこと)。続く大林作品『廃市』(1984)では一転して「文芸映画の美少女」にみごと変身。さらに『さびしんぼう』(1985)で樹木希林とのそっくり母娘に扮するなど、ハタチの時点で既に「演技派」と呼ばれるようになっていた。

続く1988年、23歳の時にスタートした『やっぱり猫が好き』は、フジテレビの深夜番組黄金期を象徴するヒット作。東京のマンションでルームシェア生活を送る三姉妹を描いたシチュエーション・コメディで、しっかり者の長女＝もたいまさこ、うっかり者の次女＝室井滋と共に暮らすちゃっかり者の三女役。テレビ業界で働いているらしいが、それも3人の会話の流れから何となく決まった設定で、実は3人も「何で食っているのか」わからない、職業不詳の都会生活者。要するに、バブル華やかなりし頃に親元を離れ、都会で「横文字」の仕事に関わっている若者たちが、プライベートな時間を気ままに過ごす姿をリアルに描いた「ホームドラマ」だったとも言える。

『やっぱり猫が好き』で発揮した臨機応変な演技力が注目されたことから、その後は映画・テレビドラマのバイプレーヤーとして、様々な職業を演じていくようになる。『ゴジラvsモスラ』(1993/大河原孝夫)の環境学者、フジテレビ『ギフト』(1997)の占い師、『きらきらひかる』(1998)の監察医、日本テレビ『ナースマン』(2002)の看護主任など、その道のスペシャリストを飄々として演じる一方で、中国からの衣料品輸入に悪戦苦闘するOLを描いた映画『てなもんや商社』(1998/本木克英)や、信用金庫勤務の平凡な日常に疑問を持った30代独身女性の葛藤を描く日本テレビ『すいか』(2003)などの主演作では、職場でのトラブルや「女としての働き方」に真正面から対峙する女性の姿を、チャーミングに演じた。『てなもんや商社』での、中国側の工場との品質チェックを巡る激しい攻防の挙句、荒野に独り置き去りにされてしまった主人公が、しばし途方に暮れた後、やがて微笑とともに水前寺清子の唄「ありがとう」を口ずさみ始める場面は、いきなり企業社会の最前線に放り込まれた「均等法第一世代」の心象風景のようで秀逸だった。

『すいか』は、高校卒の「一般職」OLが、同僚・小泉今日子が起こした横領事件をきっかけに、「ここ」で生き続ける自らの人生を見つめ直す物語。小林はその後の映画『紙の月』(2014/吉田大八)でも、同僚・宮沢りえの横領と逃亡を「見守る」ベテラン銀行員を演じている。平凡な人生を体現する彼女自身が、もしも「どこか」へ行ったとしたら…。このアイデアを形にしたと言えるのが、映画『かもめ食堂』(2006/荻上直子)。フィンランド・ヘルシンキの街角で日本食の店を開く女性が描かれるが、彼女の日々の「労働」はリアリティが希薄で、むしろ日本の女性たちの「憧れの生活」と捉えた方が納得もいく。この作品の大ヒットを受けて『めがね』(2007/荻上)、『マザー・ウォーター』(2010/松本佳奈)など、小林主演の通称「共感路線」の映画が立て続けに作られ、他の女優による同種の作品も生まれた現象は、ターゲットとしての30～40代女性層を映画館に呼び込んだことも含め、非常に興味深い。

そして50代に入った聡美さん。昨年公開の映画『犬に名前をつける日』(2015/山田あかね)では、日本の犬猫保護の現場取材に自ら赴くなど、新たな領域への模索を続けている。「東京100発ガール」「アロハ魂」などのエッセイで、その文才は広く知られていることもあり、女優&エッセイストの“先輩”高峰秀子や沢村貞子のように、さらに味わい深い存在となっていくのではないかと。「均等法第一世代」のトップランナーが、次はどこで「咲く」のか……今後も見守り続けたい。



転校生
(1982)



てなもんや商社
(1998)



すいか
(2003)



かもめ食堂
(2006)



犬に名前をつける日
(2015)